

【南九州税理士会会長賞】

おじいちゃんの補助金

宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校

三年 満永 由師

「カコン」

公民館の中に置かれた、スカットボールのセット。「三世代交流」と名付けられた、地区の小さな行事にて、子ども・社会人・高齢者の三世代での交流の一環でスカットボールを楽しんでいた。コロナの影響が収まりつつある中、久しぶりに地域の方々と顔を合わせる。

僕の祖父は、地区の高齢者クラブに所属しており、今回の三世代交流を取り仕切っていた。僕より小さい子たちも、祖父や高齢者の方々からルールを教えてもらい、家族揃って一緒に楽しんでいた。

三世代交流の最後に、行事に参加した人たち全員へ景品が配られた。小さい子たちも、長生気で元気そうなおばあさんも、景品を貰って笑顔で帰っていった。（これは誰が買い揃えたのだろうか。）僕は気になった。ジュースやキッチン用品などが数十個も用意されている。きっと、一人で買うにはかなりの額で、尚且つそのお金の分を地域の人に分配するのだから、さすがに負担が大きくて限界があると思った。もしかすると、祖父かもしれない。そして僕の家族も景品を貰って帰路につき、そのことを聞いてみた。

「おじいちゃんさすがだよ。あの景品を買い揃えるのに、いくら使ったんだろう。」

「ああ、あれは税金が使われているんだよ。」

「え？」

予想外の返答だった。税金といえば、僕も払っている消費税なども含まれるのだろうか。

詳しく聞いてみると、それは地域の活性化の取り組みの一環ということが分かった。なんと、地区で行う行事に、市から補助金を出してもらえるところのことだった。

まず、企画を計画し、参加人数や、何が必要かを明確にして、市に提出する。そして、それに見合ったお金を、市から補助金として出してもらえるのだ。その補助金は市民からの税金によって賄われている。

これまでは、消費税の10%への引き上げなどが話題になっても、自分では税金のことをあまり知らずにいた。しかし実際は、この三世代交流といった地域の活性化など、自分たちの生活の充実に充てられていることが分かった。

三世代交流で地域の方々へ渡された景品の費用が、自分が過去に払っていたお金だとしたら。これまでの自分の出費の中の一部が、誰かの役に立っている。誰かを喜ばせている。そう思うと、自分はこれまで沢山の人を助けてきたように思える。

しかし、消費税は社会保障に使われるために、補助金には含まれないそうだ。それでも、僕が大人になれば、住民税、固定資産税、所得税など、より多くの税を納める必要がある。それは最も簡単な人助けの一つであり、これからも、永劫変わらないものであってほしい。